

第36回

# SCCJセミナー

## やさしく洗淨する技術 —人と環境に配慮する洗淨について考える—

午前の部

午後の部

10:00  
~  
10:05

開会の挨拶 セミナー委員長 鈴木 裕二

### やさしい洗淨の基礎

千葉科学大学薬学部 坂本 一民先生

辞書によれば洗淨とは元々は洗滌(せんでき)と書き、薬品などで洗います。洗い清めることとあります。(せんじょう)は慣用読みで滌の当て字として浄を使うようになったようです。つまり、不用なもの(これを汚れと言う)を取り除く行為と言う事になりますが、何が汚れかは洗淨の目的によって異なります。本講演ではスキンケア、ボディケアの一環としての洗淨について、特に界面活性剤の役割に注目して解説します。

10:05  
~  
10:55

### 洗淨システムにおける泡のサイエンス

山形大学大学院理工学研究科 野々村 美宗先生

泡のサイエンスの歴史は古い。ニュートンやケルヴィンなど、そうそうたる研究者たちが泡に魅せられ、その構造やふるまいを支配する物理法則の解明に取り組んできた。また、美味しいシャンパンやスプレを作るためには、泡立ちのコントロールが不可欠だという。本セミナーでは、泡の物理に関する研究の流れを紹介し、皮膚洗淨料・毛髪洗淨料の設計の指針について考察する。

10:55  
~  
11:45

11:45  
~  
13:00

昼食休憩

■ 日 時 2010年10月28日(木)  
10:00~18:05(受付開始9:30)

■ 会 場 セミナー パシフィック横浜会議センター 5階 503号室  
フリーディスカッション：同会場 5階 501号室  
〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1  
☎ 045-221-2155(代表)

■ 主 催 日本化粧品技術者会  
☎ 045-590-6025

■ 参加費 会員:13,000円/非会員:19,000円  
当日参加(会員・非会員共に):19,000円

13:00  
~  
13:40

### ヒトと地球にやさしく洗う

~低刺激性・天然系洗淨用界面活性剤の開発と応用~

味の素(株) 押村 英子氏

ナチュラル・オーガニック化粧品の高い伸び率が注目されている。このセグメントが化粧品市場全体に占める割合は大きくはないものの、関心の高まりに応じて、一般の化粧品においても、自然由来の安心感、製品の製造と使用における環境負荷側面を重視する傾向が強まっている。洗淨用製品を作り、使用するという一連のプロセスにおいて、ヒトと環境に与える影響を総合的に捉えながらよりよい製品を作ろうとする取り組みについて論じる。

13:40  
~  
14:20

### 肌にやさしい洗淨製品の開発

㈱資生堂 木村 友彦氏

皮膚洗淨料は、汚れをきちんと落とし、使って気持ちよく、そして肌にやさしいことが求められる。製品が低刺激であるだけでなく、お客さまがイメージするやさしさを商品設計に盛り込んでいくことも重要である。こうした要求に、製品開発者としてどう応えていくのか。刺激の評価方法、洗淨成分の選定、低刺激化の技術など、過去の研究にも触れながら、肌にやさしい洗淨製品の開発について紹介する。

14:20  
~  
15:00

### 頭髪・頭皮にやさしい洗淨技術

ライオン(株) 柏井 利之氏

近年、清潔意識が定着し、洗髪回数が増加している。そのため、シャンプー・コンディショナーには単に汚れを落とし、頭髪を保護するだけでなく、頭髪・頭皮をマイルドに洗淨する機能が一層求められてきている。これまでに我々は頭髪・頭皮に対するマイルド性を高めることを目的に頭髪補修や頭皮状態改善に関する研究を行ってきた。本セミナーでは、頭髪表面の補修技術、頭皮の乾燥・刺激抑制技術について紹介する。

15:00  
~  
15:20

休憩

15:20  
~  
16:00

### 水性洗顔料の使用方法和肌への影響

~肌にやさしい理想的な泡による洗顔について~

ポーラ化成工業(株) 佐藤 千尋氏

水性洗顔料開発では、皮膚刺激性などの安全性に留意した洗淨成分を配合するなど種々の工夫がなされてきている。しかし実際にその処方を使用してもらうと、設計通りの結果が得られない場合がある。そこで使用方法に着目し、実態を調査した結果、泡立ての足りない濃い泡で洗顔すると乾燥症状が発現するなど、使用方法の違いが肌状態に影響することを実証した。消費者自らがクリームや固型などから泡状に形態を変化させて使用する水性洗顔料は、適切な使用方法で使用してもらうことが非常に重要である。

16:00  
~  
16:40

### 地球にやさしい衣料用液体洗剤

花王(株) 石塚 仁氏

近年、環境問題に対する企業対応は必至であり、衣料用液体洗剤においてもCO<sub>2</sub>排出量削減に努めている。一方、消費者は環境問題に貢献したいが、多大な労力を要する行動は敬遠する傾向にあるため、ベネフィットを考慮しながら地球にやさしい洗剤が望まれている。そこで我々は、洗剤配合と洗濯工程で使われる水に着目し、洗剤の超濃縮、並びに繊維に残りにくい成分を用いたすすぎ水の削減に成功したので、研究思想と効果発現メカニズムについて紹介する。

16:50  
~  
18:00

フリーディスカッション

18:00  
~  
18:05

閉会の挨拶 セミナー副委員長 林 照次